

演奏しているときに、本当の自分



「高校生のころからみの〜れに関わり、ここまで没頭するとは、正直自分にビックリです。」と語る高橋さん。

楽団四季

「Jolly forest Jazz orchestra」

高橋 剛 さん

みの〜れと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ No.50

猛暑が続き、涼しげな木陰が恋しいこの季節。遠くから夏祭りの音色や花火の音が聞こえ、子どもの頃の楽しかった夏休みを思い出す。今回は10月23日に行われる「いばらきビッグバンドジャズフェスティバル」に出演する楽団四季「ジョリーフォレストジャズオーケストラ」(以下ジョリーフォレスト)のドラムを担当するひたちなか市にお住まいの高橋さん取材する。

人見知りだった 自分の変化・・・

高橋さんがジョリーフォレストに入団したきっかけは、「いばらきビッグバンドジャズフェスティバル」に出演してみの〜れを知ったのがきっかけだった。そんな高橋さんは実は、中学校時代は卓球部で活躍していたが、高校生になり、リズム感がいいと親に言われ、ジャズバンド部に思い切って入部し、トランペットに挑戦。高校を卒業してからジョリーフォレストのドラムを募集していることを知り、興味があったので、ドラム担当として飛び込んでみた。独学で学び、大変だったが、一生懸命練習したそう。小美玉市内の住民だけでなく他市町村から通っているメンバーもいて、そこがまたジョリーフォレストの魅力なのかなと思う。

高橋さんはドラムを担当しているいつも心がけていることは、表情を豊かにすること。他の楽器ではできないパフォーマンズができる所がドラムのいい所だ。「普段は、人見知りな所があり、まさか自分が前で演奏をするとは思わなかった。音楽をやっているときは普段よりも社交的な自分がある。違った自分の発見と居場所がここにはありますね」と話す。

また、「読書や映画鑑賞が好きで、一日没頭して読んでしまう。また、手先を動かすことが得意で、おりがみや工作も大好きです。」と、しなやかに伸びた器用そうな指が印象的だった。「休日はジョリーフォレスト以外にも音楽活動をしているので、レストラン等でジャズライブを行ったり、平日でも仕事が終わってからライブをする日もある」と、本当に音楽が好きなのが取材を通して、伝わってきた。

10月23日の『いばらきビッグバンドジャズフェスティバル』に向けて現在は練習中。「ドラムは毎日練習するのが厳しいので、ジョリーフォレストに来たときに、集中して練習している。ドラム他の楽器に比べて決まりが少ない楽器なので、ジャズの音楽性がある中で、なるべく周りの楽器を生かしつつ、プレイ出来るように心がけている」と話す。

「ジョリーフォレストは、日々成長していて、長年活動しているチームに負けないような力を持っている。みんな話しやすいので、楽しいチームです。また、楽器は一生出来るものなので、オススメです。楽器をやっている人は実年齢よりみんな若い。脳の刺激にもなるかも？」と話す。爽やかな笑顔でドラムをたたく高橋さんを是非、見に来ませんか？

(藤田 佐知子)